

「こども若者★いけんぷらす」における 特別支援学校等の子供たちからの意見

令和7年10月9日
特別支援教育WG
資料5

こども基本法の趣旨も踏まえ、これからの社会を担う子供たちの思いや願いを学習指導要領の検討に活かしていく観点から、**こども家庭庁の「こども若者★いけんぷらす」の枠組を活用し、今後の学校での学びの在り方等について子供の意見聴取を実施。**

実施の概要

テーマ	みなさんが願う人生や社会にするために、学校でどんな学びが大切ですか？	
テーマ説明	学校での学習の目標や内容は、「学習指導要領」で定められています。学習指導要領はおよそ10年に一度のペースで作り変えます。今、新しい学習指導要領に作り変える取組が始まっています。学校での学びを通じて、みなさんにはこれからの人生・社会をつくるための大切な力を身に付けていってほしいと思っています。 新しい学習指導要領を作るにあたり、「将来の希望」や「学校での学び」について、みなさんの意見を「こども若者★いけんぷらす」の「いけんひろば」でかかせてください。	
実施時期	令和7年1～2月	
参加者	【アンケート・オンライン】	「こども若者★いけんぷらす」の「ぷらすメンバー」に登録している方のうち、小学生～高校生年代の方（アンケート回答件数：187件、オンライン参加者数132人）
	【出向く型】	<u>特別支援学校・学びの多様化学校等（計7校）に通う小学生～高校生年代の方（参加者数：47人）</u>

いけんのまとめ・報告資料 全体版はこちら

<https://ikenplus.cfa.go.jp/announcements/jvwycnmam95uvmnd>



特別支援学校等の子供たちからの意見の例

(こども家庭庁公表資料「いけんのまとめ」より抜粋)

1

未来の社会、将来の自分について ①

【未来の社会について】

- 駅にホームドアがついたらよい。東京にはたくさんあるが、自分が住んでいる駅の近くにはない。(視覚障害)
- 平等に過ごせる社会になったらよいと思う。(視覚障害)
- いま自分が出かけるとしたら、誰かに送ってもらうか、歩くか、公共交通機関を使わないといけない。一人で車を運転できるようになったらよい。(視覚障害)
- 大学や会社に勤めるときに、健常者と同じ権利を持てたらよい。(視覚障害)
- 英語など、ろうの人にとっては聞き取るのが難しいものがある。ろうの人がなんでも聞き取れる社会になってほしい。(聴覚障害)
- 最近はろうに対する理解が広がってきていると思うが、全国的にはまだろうの理解度が低い状態。将来、全国的にろうへの理解が進み、ろう者の聞こえ方や、はっきりしゃべれる人、しゃべれない人などいろいろな人がいるといった現状を知ってもらえる社会になってほしい。(聴覚障害)
- 例えば聴者が話していることを口話で理解しようとしても分からず、コミュニケーションの輪に入れないことがある。それを見ると、心が落ち込むことがある。将来、ろう者も聴者と一緒に楽しく話せるような場が増えるような社会になればいいと思う。(聴覚障害)
- 一人でどこでも行ける社会。一人でどこでも行けたら、北陸など知らない場所にも行けて楽しいと思う。一人で電車に乗れる路線が限られているので、もっと増えてほしい。(肢体不自由)
- 外に出ると、車いすが入れない場所が結構ある。誰でも入れるような場所を作れると良いと思う。(肢体不自由)
- 戦争がなくなったらいい。(自閉症・情緒障害)

※ () 内は当該児童生徒が在籍する学校・学級が主に対象としている障害種

未来の社会、将来の自分について ②

【将来の自分について】

- 大学に進学して専門的なことを学びたい。心理学に興味がある。そのために、高校では基礎的な勉強をしたい。（視覚障害）
- コミュニケーション能力を高めたほうが良いと思っている。人と会話できたほうが楽しいし、相手の良いところを吸収できる。（視覚障害）
- 自分の好きなことを周りに伝えられたらと思っている。数学が好きなので、将来教えられたらと思っている。そのためには、コミュニケーション能力を身に付けたいと思っている。（視覚障害）
- 思っていることを文章にする力をつけたい。（聴覚障害）
- オリジナリティがほしい。多数派に従うのではなく、少数派の考えも聞いて広める力があると良い。（聴覚障害）
- 自分は海外で活動できる人になりたいと思う。そのために、ろうの世界のコミュニケーションが広がるといいと思う。国際手話を身に付けられるといいなと思う。小さいころから国際手話を練習して、身に付けられる環境が広がっていくといいな。（聴覚障害）
- 睡眠をしっかりとり、ごはんをしっかり食べたりすることが大事だと思う。そのために、しっかりと学校生活を送って、自分が希望する仕事をできるようになりたい。体調管理をして、遅刻しないように気を付けたい。（知的障害）
- 壮大かもしれないが、障害者を含めあらゆる人が差別を受けずに自分らしく生きることができる社会がほしい。そのためには、いろんな人から同意を得る必要があるので、コミュニケーション能力や語学力をつけたいと思う。（肢体不自由）
- 色々なことが便利になって、障害者でも誰でも生きやすい社会になったら良いと思う。そのために、AIなどの新しい技術を身につけていきたいと思う。（肢体不自由）
- 障害などを理由に少数派になっている人たちも含めた様々な人が話し合えるような、平等でお互いに寄り添えるような社会になると嬉しい。そのためには、私たちの話を聞いてもらうことも大事だが、私たち自身ができることを伝えていくのも大事なので、発信力のある人間になりたい。（肢体不自由）
- 積極的に自分から行動する力は必要。自分がやらなくても他の人がやってくれるんじゃないか、面倒だな、という思いが勝って行動するのをやめてしまうことがある。行動力を身に付けたい。（肢体不自由）
- 自分で判断する力、相手を気づかうこと、体力は何事にも必要だと思う。（病弱・身体虚弱）
- つけたい力：コミュ力、画力、生活力、語彙力、行動力。（病弱・身体虚弱）
- 大きくなったら、町中を優しくしたい。町中を優しくするために、困っている人を助けたり、人と関わったりしていきたい。（自閉症・情緒障害）
- 新しい細胞を作ってみたい。（自閉症・情緒障害）
- 英語を喋れるようになりたい。（自閉症・情緒障害）

※（ ）内は当該児童生徒が在籍する学校・学級が主に対象としている障害種

【教科等の授業についての意見】

- 先生は親切に教えてくれるが、自分が通っている学校のテスト問題は視覚障害者のための問題だという印象を受ける。自分の兄弟や、他の学校の問題を解いてみると、見たことがない問題がある。もっと色々な問題を解く機会があるとよい。(視覚障害)
- 自分の意見をしっかり伝えられる授業があれば、社会に出てもコミュニケーション能力が高い人として認められると思う。(視覚障害)
- 授業で取り扱う内容について前提知識を学ぶ時間があればもっと良いと思う。例えば、英語の文章のテーマが地球温暖化であれば、日本語で地球温暖化について少し学んでから、英語の文章に取りかかれば身に付きやすくなると思う。(視覚障害)
- みんなのことを知ったり、何か問題があったときに解決方法をみんなで話し合ったりする授業。そうすれば、色々な意見が出てくるので良いと思う。(聴覚障害)
- いま最もやる気があるのは理科の授業。例えば、生物の授業でカエルについての話をしているときに、「カエルの目はどうしてこうなっているのかな...？」というような質問をされると、その質問の答えを考えることがやる気につながる。(聴覚障害)
- 手話にまだ慣れていない先生がいる。手話を読み取ってもらえないと勉強に対するモチベーションも下がってくるので、もっと手話を分かってくれる先生がいたらいいなと思う。(聴覚障害)
- 今の授業に不満があるわけではないが、学校の中で授業を受けるんじゃなくて、外に行くような授業も少し増えるといいなと思う。例えば、聴者と交流する場があったり、山を見学したり。授業では動画を見て学ぶんじゃなくて、その場に行って、その場所で感じるような授業があるといいな。(聴覚障害)
- 音楽と行事が好き。みんなで合唱するのがストレス発散になる。行事では、普段は行けないような場所に行くこともあるので楽しい。(知的障害)
- プログラミング。ゲームのコンテンツの基本となるプログラミングを体験できるのはワクワクする。クイズ形式の授業では知識を覚えやすくなると思う。(知的障害)
- 体育などの授業で、お互い思いやりをもって相手を手伝うような時間があるといい。一人だけだと上手くできないこともある。(知的障害)
- 特に理科などでは、面白い実験が増えてほしい。教科書を読むだけよりも、実際に手を動かした方が分かりやすい。(知的障害)
- 情報を使いこなせるようになるために、中学で必修科目としてメディアリテラシーなどを学べるようになると思う。現代社会は情報が沢山あるため、デマ情報に惑わされないためにもそういう力をつけたほうが良いと思う。(肢体不自由)
- ディベートの授業が良いと思う。最近では様々な学校が導入しはじめていると聞いた。他の人の意見を聴いたり、少数派や自分とは違う立場の考え方を知ったりすることで、大人になってからも「こういう人がいたな」と思い出すことで、コミュニケーションが上手くできると思う。お互いの意見を共有できる環境が作られると良いと思う。テーマは社会課題でもお互いについてでも良い。(肢体不自由)
- 生徒と先生の立場を逆にしてみると良いかもしれない。自分自身が教える立場になることで、どうすれば相手にうまく伝わるかを考えることができる。(肢体不自由)
- 将来必要な技術を学んだり身につけたりする機会が高校生などのうちから多少あると良い。(病弱・身体虚弱)
- 英語の授業のときに、みんなの前で発表するのが嫌だと感じる。違う部屋から発表できるようにしてほしい。また、他の教科でもみんなの前に出て発表するのは少し嫌だと感じる。前に出ないで発表するほうが少し話しやすい。ただ、国語の授業でみんなの前で文章を読むのは問題ない。(病弱・身体虚弱)

【教科書についての意見】

- 点字を使う生徒は（一つの教科で）教科書が10冊くらいになる。教科書が変わるたびにいちいちロッカーに行って探していて10分くらい使うことがある。個人的には、時代遅れだと感じる。点字ディスプレイ「ブレイルメモ」を使えば、教科書が何冊も入るのでいちいち探さなくてもよいし、はるかに軽い。（視覚障害）
- 家で勉強するときに教科書を自分で読んでいるとやる気がなくなってくるので、英語以外の教科書も音声で読み上げしてくれるようにしてほしい。英語の教科書はQRコードを読み込めば音声で読み上げしてくれる。（視覚障害）
- 紙のサイズは大きくなくてもよいので、文字のサイズを大きくしてほしい。紙が大きくても文字が小さければ意味がない。（視覚障害）
- UDブラウザ以外にも教科書を読み込めるアプリがほしい。また、他のアプリが自分に合うかどうかわからないので、各アプリのお試し期間が欲しい。（視覚障害）
- 理科の教科書がイラストや文字、実験結果などが詰め込まれていて分かりにくく理解できない。実験結果だけでなく結果に至るまでのプロセスも書いてほしい。（聴覚障害）
- 今は紙の教科書を使っているが、いつもそれを持ってくるのが大変。デジタル系の物をもっと増やしてもらいたいと思っている。（聴覚障害）
- 地理などの社会の教科書に路線図などを付録にできると面白いかもしれない。（肢体不自由）
- ハザードマップがあると嬉しい。日頃から備えておいて損はないと思う。（肢体不自由）
- 科目によって教科書の分かりやすさは異なるが、写真などの視覚情報が多いほうが良い。（肢体不自由）
- 各教科の専門の人が教科書を作っていると思うが、作成過程にその教科の専門以外の人も関わることで、その教科が苦手な人にとっても分かりやすくできると良いと思う。（肢体不自由）
- 数学は解き方がいろいろある場合、例を載せてほしい。2次元コードなどで解き方の分かりやすい動画や解説を載せてほしい。（病弱・身体虚弱）
- 英語は新出語句を本文の中で太文字などにして、読み方も同時に示して覚えやすくしてほしい。（病弱・身体虚弱）
- 算数の教科書の内容を、もっとわかりやすくしてほしい。例えば、算数の問題のやり方をもっとわかりやすくしてほしい。また、どこにどんな内容が書いてあるかをわかりやすくしてほしい。（自閉症・情緒障害）
- 豆知識がのっているのを見つけるとわくわくする。（自閉症・情緒障害）

※（ ）内は当該児童生徒が在籍する学校・学級が主に対象としている障害種

【障害への理解に関する意見】

- 学校外で道案内をしてもらったときに、「視覚障害者＝全盲」という思い込みを持たれていると感じた。アピールは、こども・若者よりも上の世代にしたほうがよい。自分たちのことを分かってもらえる。（視覚障害）
- 聞こえないから自分が言いたいことを間違えて理解されることも多い。なので、ろう者と聴者が話したり、聴者が障害について調べたりするようなことができる授業があるといいなと思っている。（聴覚障害）

【障害のない児童生徒等と共に学ぶ機会についての意見】

- 自己紹介で自分の見え方を言う習慣をつけたり、お互いを理解する心もちを大切にしたりすると、健常者と触れ合うときに伝えるのが上手になり、健常者からの質問に答えられるようになると思う。授業というより会って話した方が早いので、健常者との交流会を開いてもらいたい。小学校や中学校では交流会があった。交流会を通してコミュニケーション能力が向上する。（視覚障害）
- 健常者が通っている学校と能動的に関わって、みんなで一つのことを取り組むような授業があれば、コミュニケーションを通じて自分の障害のことも理解してもらえる社会にもつながっていくと思う。（視覚障害）
- 自分が普通学級に通っていたときは盲学校との関わりはなかった。この学校に転校してから、改めて普通学級との距離感が広がったと感じているので、もっと関わりが増えたら良いと思う。（視覚障害）
- 聴者とのコミュニケーションはお店に入ったときなどに限られる。色々な人とコミュニケーションを取れる力を身につけられるように、色々な人と交流したい。（聴覚障害）
- 今は聴者と話す機会がないので、聴者と話してみたいと思う。自分がどれくらい話せるのか知りたい。（聴覚障害）

【自立活動等に関する意見】

- 基礎的な生活能力を高めないと、社会に出ることができない。学校では自立活動の授業があり、歩行や調理などの力を養ってもらっている。もう少し学べると、ひとり暮らしで苦労しないと思う。（視覚障害）
- 現在の歩行の授業は、1時間授業なので、限られた距離しかいけない。2時間授業だとより遠くに行けるので嬉しい。（視覚障害）
- 国際手話を身に付けたい。外国のろう者とのコミュニケーションを取る機会があれば、身に付けやすいと思う。実際に外国の人に会う機会が授業で増えるといいなと思う。（聴覚障害）
- 働くための力を身に付けたい。例えば、人とのコミュニケーションの力や、自分の得意・不得意を理解する力など。（知的障害）
- 駅員さんに連絡して一人で電車に乗れるようになるための授業が良いと思う。そうすれば、両親の負担が減らせる。（肢体不自由）

※（ ）内は当該児童生徒が在籍する学校・学級が主に対象としている障害種

先生からの評価・成績、やる気が出る言葉がけなどについて

- 今日の授業でどこまで進めるかというゴールを示してもらえると頑張れる気がする。ゴールが遠すぎる場合は、先生や友だちと話してゴールをもう少し手前に設定してもらえよう交渉したい。（視覚障害）
- 自分の場合、友達感覚で先生とおしゃべりしたい。先生に何かポジティブな言葉を投げかけてもらえると頑張れる。（聴覚障害）
- 頑張れ！と言われると、プレッシャーに感じる人も多いと思う。同調するというか、寄り添う、楽しく会話ができることが大切。友達と話すみたいに先生とお話できると頑張れると思う。（聴覚障害）
- 他の人にほめてもらおうと、嬉しい気持ちになる。先生に「それで大丈夫だよ」と言ってもらえるとやる気が出る。（知的障害）
- ポジティブな言葉で声かけしてもらった方がやる気が出やすい。今までにもらった言葉で嬉しかったのは「もう一回やれば大丈夫だよ」「もう一度直してみれば大丈夫だよ」だった。（知的障害）
- 「小学校のときよりも●●ができるようになったね」というように、以前の自分と比べてほめてもらえるとやる気が出る。自分は小学校のときは字が汚かったが、最近先生から「字がすごくきれいになってるね」と言ってもらえたのが嬉しかった。（肢体不自由）
- この学校では先生と生徒の距離が近いので、良い結果が出たときに先生に伝える生徒もいればそうしない生徒もいる。自分から話してこない生徒にもさりげなく声を掛け、ちゃんと見ていることを伝えられるとやる気を出してもらえと思う。（肢体不自由）
- がんばったとき、成功したときにほめられるのは単純にうれしい。できないときに、「○○（名前）ならできるよ」という言葉はプレッシャーになり、やる気なくなる。上手いかない理由や原因を探して、コツやポイントを教えてくれたり、一緒にやってもらえたりするとやる気につながる。（病弱・身体虚弱）
- 先生が「凄く上手だね」「これからも頑張ってるね」「書き順が凄く上手だね」と言ってくれる。そう言われると嬉しい。（自閉症・情緒障害）
- 苦手な授業で、先生が声をかけてくれたとき。「楽しそうだからがんばるぞー！」と思える。（自閉症・情緒障害）

※（ ）内は当該児童生徒が在籍する学校・学級が主に対象としている障害種